

兎に角に、日本商人にして、眞に新疆地方に通商貿易の途を開かんと欲せば、敢て天津商人と結託する迄も無く、自ら進むに如かざるなり。須らく先づ實地視察を爲さざるべからざるなり。即ち各種商業團體より、一の視察隊を組織し、各方面を踏査せば、商品の販路を開く傍ら、意外の利源を發見すること有るは決して疑を容れざるなり。

四 新疆の商權

今日新疆に於ける商業貿易の趨勢を觀察するに、新疆の商權は、殆んど露商の手に掌握せられ従て昇天の勢あるは、事實とす。其の原因は、一に露清の國境、比較的交通に容易なるに在り。之に對抗して、活潑に競争するは、實に天津商人なりとす。天津商の物貨を輸入するもの、多く張家口より戈壁の地帯を通過す、其の路程の險惡困難、實に察するに餘り有り。彼等の豪氣勤勉なること、他の漢滿人の到底企及し得ざる所とす。彼の山海萬里を隔つる新疆内にて些少ながらも日本の物貨を見るを得るは、全く彼等天津商あるが爲めはり。天津商は概ね在理教信者にして、比較的潔癖ありて、酒を飲まず、煙草を喫せず、店内の商規も、亦觀るべきもの有